



甲冑姿で火縄銃を構える大阪城鉄砲隊の皆さん



大砲の実演には分解して担げる「山砲」も登場



手裏剣投げも体験し、見事に的へ命中



雨で催しが縮小される中、「まつり」の盛り上げに智辯学園和太鼓部が一役買った



高取町観光協会制作の看板からは、往時の堅固な高取城が偲ばれる



火を出して空砲の大きな音をとどろかす火縄銃の実演=11月23日、高取町土佐街道筋の児童公園で

雨降る中、「ドン、ドーン」

見物客の度肝抜く、火縄銃実演

日本百名城に認定された日本三大山城の一つ「高取城」の麓に栄えた城下町として古い町並みを残す高取町。そのメイン道路の土佐街道周辺で11月23日、第34回「たかとり城まつり」(町観光協会、同まつり実行委員会主催)が、3年ぶりに開催された。あいにく雨天のため、時代行列や殺陣の実演、南京玉すだれ、よさこい踊りなどが中止となつたが、本戦さながらの火縄銃の迫力ある実演は、訪れた見物客の度肝を抜いた。

第34回 たかとり城まつり

高取町は幕末の文久3(1863)年8月、大和五條で挙兵した天誅組との戦場となつたことでも知られている。天誅組はすでにこの時点で「倒幕」の大義名分を失い、逆賊として追討軍に追われていた。途中、高取城を攻撃するものの、迎え撃つ高取藩士の士気と大砲(ブリキトース)などの砲撃になす術もなく後退した。

高取藩と天誅組の戦いの場面は、歴史小説家・司馬遼太郎の『おお、大砲』に描かれている。江戸時代の長い間、一度も戦いのなかった高取藩は、明治維新の先駆けとなる天誅組と歴史的な闘争を持つことになった。

まつりのメイン会場になつた児童公園では、大阪城鉄砲隊(澤田平隊長)の隊員ら20人が午前、午後の2回、テン

ト張りの下で火縄銃の実演を披露。火を出して空砲の「ドン、ドーン」という大きな音をひびかせる。会場の見物客からは「ウオー」と驚きの声が巻き起こつた。この

後、戦いの山越えで分解して担ぐことができる「山砲」の実演もあった。

隊長の澤田さん(90)は

「20年前から毎年来させてもらっていたが、コロナで途絶えてしまった。雨で残念だったが、3年ぶりに火縄銃の実演を見てもらい感極まった。やはり高取城は堅固で立派な城。坂が多いので天誅組の攻撃の時、敵は登つて来られなかつた。武器を持っていたのでも、天誅組をコテンパンにやつつけた」と約160年前に思いを寄せ、語氣を強めた。

またこの日、主会場では智辯学園和太鼓部(木之下真優)

子どもには「手裏剣投げ」「兜・陣羽織」試着も

団長(10人)による和太鼓演奏。子どもたちには「手裏剣投げ」や「兜(かぶと)・陣羽織」の試着写真コーナーも設置。街道沿いには「日本百名城」写真展開催のほか、地元団体や商店などの出店が並び、家族連れや観光客らを呼び止めていた。

甲冑姿で時代行列に参加予定だった中川裕介町長は「楽しみにしていた行列は中止となり、残念でならない。来年こそは行列に参加できるよう期待している」と話していた。



街道沿いの出店に立ち止まり、わらび餅を試食する観光客ら